

## 団 体 表 彰

生 協 名	表 彰 対 象	表 彰 理 由
<p>コープぐんま</p>	<p>大利根コープ会 代表 小阿瀬 明子</p>	<p>会員数 5名</p> <p>前橋市の南西部、大利根小学校付近のメンバーの集まりで、30年の歴史を持つ息の長いコープ会です。</p> <p>今まで地域の組合員を誘ってのおせち試食会など、地域を基盤としていろいろな企画を開催してメンバーを増やしてきました。メンバーの入れ替わりはあっても、生協の歴史や生活の知恵をまわりの組合員に伝え続けています。現在は、エリア企画に参加したり、隣の新しい「あずまコープ会」と一緒に楽しく取り組んだり、総代として毎回積極的な意見を出したりしていただいています。また社会参加の場としても毎月一回のコープ会での意見交換は楽しみでもあり、大切にしています。</p> <p>エリア会として、「大利根コープ会」の継続30年に敬意を表します。</p>
	<p>リーディングサービスボランティア 代表者 なし</p>	<p>会員数 7名</p> <p>お買い物がとても大変な視覚障害の方々のコープデリ注文のお手伝いをしてくださっているのが、リーディングボランティアの方々です。</p> <p>週に1回、コープぐんまの本部に手弁当で集まって、カタログの内容を聴いただけで想像できるように丁寧に読み上げ、一日がかりで録音しています。録音したCDを聴いて目の不自由な組合員さんは注文しています。利用している組合員さんからは「とても助かっています。私たちにはなくてはならないボランティアさんです。本当に感謝しています。」と喜ばれています。</p> <p>また年に一度、利用組合員さんとボランティアさんの交流会を行い、組合員さんからの意見を聴いたり、組合員さんどうしの交流を深めたりしています。</p> <p>このようにリーディングボランティアのみなさんは地道で素晴らしい活動を行っています。</p>

生協名	表彰対象	表彰理由
生活クラブ生協	<p>高崎支部安中地区200462. 2882. 2899のポイントおろし班 代表 神宮 澄江 会員数 33名</p>	<p>安中地区の共同購入は現在ポイントおろしになっています。 1ヶ所25人以上というルールの中で、原市周辺18人、郷原周辺9人、松井田周辺6人の3班が原市のポイントおろし場所で毎週キッチンと荷受をしています。 世帯あたりの利用高も20,000円を超えています。 荷受先の神宮さんを中心にした3班は、ポイントおろしのリスクを乗り越え、生活クラブの価値を前面に地域でひろめていく活動をしている班として推薦します。</p>
	<p>藤岡準備支部ステーション&amp;戸配班専任当番スタッフ 代表 塚本 知子 会員数 6名</p>	<p>いま、共同購入のニーズは100%戸配です。 しかし、生活クラブ生協群馬は班のみの単協です。 生活スタイルが多様化し、さまざまな組合員事情で戸配にたよらざるをえない人がいます。そんな組合員の受け皿として誕生したのが、ステーション&amp;戸配班の専任当番スタッフです。誕生して丸2年になります。 この受け皿を利用している組合員は25人、担っている専任当番スタッフは6人です。組合員同士の助け合いの精神を軸に、荷分けや戸配をし、運営も確立、管理体制もしっかりしています。 班のみ単協の課題を、いち支部、いち地域で、「ステーション&amp;戸配班の専任当番スタッフ」というスタイルで組合員が自ら考え、運営している姿は立派です。 単協の課題解決の糸口となる仕組みを先行導入した「ステーション&amp;戸配班の専任当番スタッフ」を推薦します。</p>

生協名	表彰対象	表彰理由
<p>パルシステム群馬</p>	<p>パルぴよくらぶ 代表 田島 由美子</p>	<p>会員数 6名</p> <p>生活協同組合パルシステム群馬には、パルぴよ託児制度があります。多くの組合員が生協の活動や行事企画に参加できるよう、組合員活動の一環として発足されました。その託児スタッフの活動を自主的に円滑に運営できるように活動全体をリードする役割を担っているのが「パルぴよくらぶ」です。</p> <p>現在6名の運営メンバーが36名のパルぴよスタッフと連係して、行事に参加する組合員をサポートし、よりよい生協内の相互関係を築いていこうと活動しています。</p> <p>託児においては、お子様の安全への気配りはもちろん、内部研修を積み、託児経験者との交流会を開くなど、スタッフのスキルアップやお母様方とのコミュニケーションを通し、よりよい活動へとつなげています。</p>
	<p>スヌーピー班 代表 小林 ふじ江</p>	<p>会員数 6名</p> <p>西吾妻地区の共同購入グループ 毎週利用し、生協活動にも積極的に参加しています。</p> <p>お勧めの商品や普段から気になっている事などがあれば、その場で意見交換などをして、情報の共有もおこなっています。また、環境活動にも関心があり、廃油石けんを作ったり、石けん生活にも進んで取り組んでいます。</p> <p>これからもこのような活動を継続的に行っていただけることを期待しています。</p>

生協名	表彰対象	表彰理由
利根保健生協	川場支部 中野合同班 代表 戸丸 英子	<p>会員数 12名</p> <p>川場村中野地区は、りんご、ブルーベリーの盛んな集落です。  10年前に11人で班会を始めて毎月続いています。当時の平均年齢は45歳でした。毎月1回、血圧チェックはもちろん、年間計画を立てて、数々の「班会メニュー」を取り入れて行っています。</p> <p>その中で、3年前に体脂肪の話から、少しでも減らして健康になるには「歩く」ことが一番と聞きました。農作業をしても歩くときに使う筋肉は違う。ヒザの痛い方、腰痛持ちもいましたので少しでも改善できればと、班会の翌日から、午後8時に班会の会場でもある集会場前に集合し歩こう。と話がまとまりました。</p> <p>○昼の作業で疲れていても8時になったら歩き出す。7～8人でも集まった人たちだけで歩く。</p> <p>○8時には来られない人もいますが、待たずに出発。当初、1時間ほど歩いていましたが「疲れる」という声もあり、現在は「無理のない程度で楽しく」と40分ほど歩いていきます。雨が降ったら休む。疲れていたら休む。何の束縛もなく集まった人たちだけで歩き出す。そのことを心がけています。</p> <p>その結果、足の痛みがとれた。腰痛がなくなった。登山する人も楽に登れた。などと、痛みや筋肉痛がなくなってきています。</p> <p>皆が元気で歩く姿を見て「パワーを戴いた」との話も広がっています。これからもこの班会を続けて開き、健康に注意して歩き続けていただきたいと思います。</p>
	機関紙「利根の保健」梱包ボランティアグループ 代表 角田 正男	<p>構成人数 30名</p> <p>生協の機関紙「利根の保健」の定期的な発行の準備に関わるボランティアグループです。</p> <p>総代、班長に依頼する「利根の保健」を梱包する帯へのラベル貼り。</p> <p>現在、組合員4人が登録され、2～3人が組織課からの呼びかけで毎月末にボランティアとして約半日活动していただいています。</p> <p>また、「利根の保健」の梱包には約30人が登録されており、毎月末に組織課からの呼びかけで15人前後がボランティアとして関わり、定期的な発行に協力していただいています。</p>

生協名	表彰対象	表彰理由
北毛保健生協	赤城支部 樽班 代表 嶋村 さち	会員数 14名  定期的な班会開催の中で、認知症サポーター養成講座、転倒予防、裁判員制度学習など、様々なテーマで健康づくり、地域づくりに努めていることを評価しての推薦です。
	金島支部 福祉委員会 代表 猪俣 友子	会員数 26名  支部福祉委員会を中心に、高齢・障害による日常生活が困難な方への様々な支援活動に取り組むことによって、地域のささえあいと組合員の交流を育み、まちづくりに貢献していることを評価しての推薦です。

生協名	表彰対象	表彰理由
群馬中央医療生協	下川淵支部鶴光路町輪投げ班 代表 土倉 政治	会員数 13名  ○ 輪投げ班会の定例化と組合員同士の親睦を深める ○ 輪投げを通じた世代交流とまちづくりへの貢献 下川淵支部では第1回輪投げ大会をきっかけに2008年4月に鶴光路町輪投げ班が誕生しました。輪投げはやるごとに楽しさが増し、当初は週3回開催していました。公民館で輪投げをやっていることが地元の老人会や自治会の方々の目にふれ、町内で次第に輪投げが話題になりました。班会では医療生協のことを地域の人たちにもっと理解してもらおうと積極的に地元の人たちに働きかけを行いました。鶴光路町で定期的に行っている世代交流企画では輪投げ大会が開催され、小学生から高齢者が楽しく交流することができ大好評でした。また地元保育所の行事にも輪投げ班として参加し交流を深めています。 医療生協輪投げ班が積極的に地域のまちづくりに大きく貢献していることは評価できる取り組みです。現在は週1回の開催ですが、休憩時間にはお茶飲みをしながら楽しく交流しています。時々健康チェックも行いながら、新年会や忘年会で班員同士の親睦を深めています。
	菜の花の会 代表 大澤 章江	会員数 14名  ○ 2004年2月から高齢者対象の「昼食会」の食事づくりを続けています。「昼食会」には、太田協立病院周辺のお年寄りが集まって、月に1回（第四金曜日）太田地区の組合員会館2階で、うたや体操、昼食を楽しんでいます。 菜の花の会は、2002年から社会保障活動の活動資金集めに貢献するため、職員への昼食販売（社保昼食会）を始めました。2004年2月からは、独り暮らしのお年寄りを対象に、材料費だけの安価で提供する昼食会を開始しました。参加者からは「みんなで食べるとよけい美味しいね」「愛情のこもったご馳走。多くの人の手に支えられていることがとても幸せです。」等、毎回多くの喜びの声が寄せられています。ボランティア会員も「交流ができて楽しい」「料理が覚えられる」「知り合いが増えた」等、活動そのものに満足しています。 医療生協がめざしている地域の中での支えあいの模範的とりくみのひとつです。

生協名	表彰対象	表彰理由
はるな生協	<p>はるな生協院所利用委員会 代表 高橋 一夫</p>	<p>会員数 約30名</p> <p>はるな生協の運営する事業所の三つの院所（高崎中央病院 通町診療所 はるな生協歯科診療所）に設置されています。</p> <p>利用者の意見を汲み上げ、事業所のサービス向上のために、組合員と職員とで知恵を寄せ合って改善を図っています。単に苦情の処理だけでなく、評判の良い職場を表彰したり、新築移転の活動を共に取り組んだり各事業所ごとに創意をこらした活動を推進したりしています。</p>
はるな生協	<p>はるな生協片岡・八千代支部 代表 茂木 つる子</p>	<p>会員数 600名</p> <p>昨年9月、旧片岡支部を三分割する形で新たに結成された支部です。新役員のもとで年間計画をたて、毎月班会を開催しています。内容も、中央病院の職員を招いての健康学習会から、健康づくり観音山ハイキング、日帰り温泉旅行と、組合員の要求に応えた多彩な活動を行っています。</p> <p>昨年は仲間ふやしと出資金増やしの年間目標を達成するとともに、これまで生協機関紙「緑十字」の配達コースの無かった聖石町、片岡一丁目、三丁目東部にも配達できるようになりました。</p> <p>今年も、みんなで力を合わせ、はるな生協に自然と足が向くようにしたいと頑張っています。</p>